

# 令和7年度 学校法人平青学園 長野平青学園 学校自己評価表

この評価報告書は、長野平青学園の令和7年度点検・評価活動結果を記したものである。

作成日：令和8年5月1日

実施責任者：校長 鈴木詩郎

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である

実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 1. 教育理念・教育目標・人材育成像

### 基本方針

(1) 実社会において専門的業務を遂行していくために要求される高度の資格を取得し、スペシャリストとして活躍できる実力を身につける。

(2) 目標に向かって計画的かつ主体的な学びに励み、自己学習力を高めるとともに自他共に成長していくことの喜びと相互協力の大切さを体得する。

(3) 学内の学習活動にとどまらず、現場実習、演習を充実させ、課題の発見や解決に向かう実践力を鍛える。

(4) 常に地域の企業・家庭・学校・社会と密接に連携した教育活動を展開することにより、社会性と協働性に富んだ人間を育成する。

#### 【総括】

少子高齢化と労働生産人口の縮小が進む中、グローバル化や生成AI等の進化が労働形態や産業構造の転換を加速させている。一方、円安を背景としたインバウンドの増加ほか、アメリカの政策転換や紛争の影響により経済動向も変化が激しい。教育機関はこうした社会変容を見据えながら、即戦力を求める雇用ニーズや実践的な専門力を求める学習者の期待に応えなければならない。また、文部科学省による法改正や教育施策を念頭に、専門学校も教育の質保証をしっかりと打ち出すことが求められている。教育理念、教育目標を軸とした育成人材像を一層明確にしていくとともに、各科の持つ特長、独自性の具現化

#### 【今後の取組】

・ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの有効性について入学から卒業までの評価、検証を行なっていく。

・教育課程編成委員会や実習指導者会等での意見交換を踏まえ、求められる育成人材像を教育活動にしっかり反映させていく。また各科それぞれ関係機関との協力、指導者との連携に努め、育成人材像を共有していく。

・設置理念、教育目標と学生や志願者が求める学習、実践力のすり合わせにより、有効なカリキュラムを提供する。

・就職活動の早期化、長期化に伴い、学生が個々の学修成果や専門力を表現できるプレゼンテーション力やコミュニケーション力に自信が持てるよう指導に工夫を重ねる。

・経済動向、雇用形態など社会変容や業態変化にも目を向け、きめ細かな指導対応を心がける。就職後

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
指針作成と明示	教育理念、目標等を明文化し、学外に公表しているか。	○	B	B
	教職員、学生等に対して周知を図っているか。			
	社会のニーズ、学習者の期待に応えるための指標、指針があるか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 2. 学校運営

### 基 本 方 針

- (1) 理念、目標をふまえた運営方針を定め、事業計画の理解と浸透を図る。
- (2) 事業計画に基づき、目標達成に必要な組織編制を行う。
- (3) 事業計画の推進に向け、業務分担や業務量を適切に管理するための制度、システムを整備する。
- (4) 情報システムの構築 活用により、業務の効率化を推進する

#### 【総括】

業務の一体的な推進に向けて学園の組織整備を進めている。全体会議、学科責任者会議を定期開催し、朝会を持っているが、課題の共有と周知を図るため、各科、部署等の連携を一層密に図らなければならない。新規採用者、中途採用者の円滑な業務引き継ぎと育成に学園全体で力を注ぐ。また勤怠システムや服務規程、情報システムの運用についてさらに見直しを重ね、働き方改善を進める。

#### 【今後の取組】

- ・期中、期末の考課面談、科や部署の予算ヒアリング等を日常業務の推進はもちろん、将来構想の共有につなげ、課題を学園全体にフィードバックしていく。
- ・グループウェアなど情報ネットワークの利活用を一層充実させる。
- ・データ、情報処理の作業効率を高め、システム管理の利便性を高めていく。
- ・教職員の採用と育成に組織的に取り組む。
- ・職場全体の共通認識を高めるため、学科責任者会議の機能、役割を生かし、教職員の意見集約、情報発信につなげていく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
運営方針	学校運営に必要な組織を整備しているか。	△	B	
	学校経営ならびに運営方針を教職員に周知しているか。			
	事業計画の推進体制、業務分担等を明示しているか			
運営組織	学校運営に必要な組織を整備しているか。	○	B	A
	学校経営ならびに運営方針を教職員に周知しているか。			
	学校運営に必要な会議が定期的開催されているか。			
	事業計画の推進体制、業務分担等を明示しているか。			
システム情報	情報管理システムの活用により、業務の効率化が図られ、有効な情報提供が行われているか。	○	B	
	システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

### 3. 教育活動

#### 基本方針

- (1) 学園の教育理念にもとづいて、各科、学年における目標を明確に示し、指導体制を確立する。
- (2) 質の高い教育を展開するために外部関係者とも協議を重ね、社会ニーズ、学生ニーズに応えるカリキュラムを編成する。
- (3) 各学科に関連する分野との緊密な連携により、実践的な職業教育を実施する。
- (4) 資格取得支援、就職支援、教育活動全般をとおして、様々なキャリア形成の支援を行う。
- (5) 学生一人一人の自己理解、キャリアプランニング能力を高める教育活動を展開する。

#### 【総括】

キャリア形成、職業実践力を養う教育活動に力点を置き、企業、事業所、関係機関と連携した実習を展開している。各科の卒業研究、成果発表では、専門知識や実習経験を学園、地域にどう還元し、生かすかという視点を重視している。就職活動ではエリアの広域化、採用企業の業態変化に対応できるよう、コミュニケーション力や人間関係構築力につながる指導に一層力を注がなければならない。そのほか、授業のDX化、AI活用など専門力を高めるカリキュラム開発が求められている。

#### 【今後の取組】

- ・教育課程編成委員会の提言や社会状況、また学生実態を勘案しカリキュラム編成の改善にあたる。
- ・新たに4年制コースを開設するICTシステムデザイン科はインターンシップ先を確保していく。また地元で実習を展開する歯科衛生士科も関係施設、臨床施設等のさらなる拡充を図る。月80時間のインターンシップを行なう医薬サポート科医薬品スペシャリストコースは、学生の事前指導、受け入れ事業所との相互理解を入念に行なっていく。
- ・全科で卒業研究発表会を実施し、相互に学修内容を共有するとともに学校内外の関係者にも成果を示していく。
- ・EQアセスメントなどの活用による自己理解、他者理解をとおし、個々の人間力育成に力を入れていく。
- ・文部科学省「職業実践専門課程、」厚生労働省「専門実践教育訓練給付金指定講座」の認定を継続する。
- ・客観的自己理解にもとづいたキャリアプランニングを支援し、職業的使命感を育てる。また、就職後も視野に入れたキャリアデザインを構想できる力をつける。
- ・教員の資質向上に向け、高度資格の取得や研修参加、自己啓発活動を積極的に支援する。
- ・新任者の職務遂行力の定着と向上に向け、研修体制、指導体系の改善と確立を図る。
- ・オンラインを学習ツールとして生かし、可能なコース、授業はレベルや習熟度に応じた学習システムの開発を図る。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
設 目 定 標	育成人材像に沿った修業年限分のカリキュラムが編成されているか。	○	B	A
	教育到達レベルは理念等に適合しているか。			
	資格取得を目指す学科では、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか。			
教 育 方 法	教育目標に沿ったカリキュラムが学科ごとに体系的に編成されているか。	○	B	
	職業実践教育の観点から、講義・演習・実習を適切に配分しているか。			
	カリキュラムについて外部関係者の意見聴取を行い、作成に反映しているか。			
	企業実習、インターンシップ、施設実習等の実践的教育が体系的に実施されているか。			
	授業評価が適切に実施され、評価結果がフィードバックされているか。			
	成績評価、単位認定、修了、卒業は基準にもとづき、適正に行われているか。			
	学生の自己理解と自己分析にもとづく能力向上に取り組んでいるか。			
評 定 調	授業時数、単位数を明確にし、成績評価、単位認定の基準を適切に運用しているか。	○	B	
	学生一人一人の成果、到達度を図るための発表機会等を確保しているか。			
	各科目のシラバス、授業計画を作成し、学生に提示しているか。			
体 指 導	目標とする資格がカリキュラムに位置づけられているか。	○	B	
	取得目標とする資格の内容、意義について明確にしているか。			
	資格取得に関連する授業科目、講座開設などを実施しているか。			
教 職 員 組 織	人材育成目標の実現に適う資格、要件を備えた教員を確保しているか。	○	B	
	関連分野における専門性や業界との連携力に優れた教員を確保しているか。			
	専門性や指導力を把握し、向上させるための職場内研修を充実させているか。			
	教職員の組織体制、業務分担を明確に定めているか。			
	専門性や指導力向上に向けた外部研修、自己啓発に対する支援を行っているか。			
	専任・兼任含め教員間の連携、協力体制を構築しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

#### 4. 学習成果と教育効果

##### 基 本 方 針

- (1) 各学科に関連する分野、業界の状況把握と情報収集を的確に行い、100%の就職率を目指す。
- (2) 各専門分野で求められる資格、とりわけ高度資格を目指す学科では取得支援体制を充実させるとともに結果を踏まえ、指導方法の改善に努める。
- (3) 卒業生の活躍や在学生の就職活動やキャリア形成等に生かし、教育の質向上につなげる。

##### 【総括】

歯科衛生士国家試験、医薬品登録販売者試験など国家資格においては手厚い指導体制により、いずれも全員合格を果たした。ともに在学中の取得により最前線に立つ即戦力として期待が大きい。医薬サポート科メディカルサポートコースは医療事務、化粧品検定など平均13個、医薬品スペシャリストコースは平均10個の資格を取得した。ICTシステムデザイン科もグラフィックデザインコースが8.5個、ITスペシャリストコースが平均7個の資格を取得している。高度資格、難関資格の合格や就職率の高さを実績に一層学園の信頼度を高めていく。

##### 【今後の取組】

- ・実習、インターンシップでは、事前に知識、技能の習得を重ね、学生個々の主体的取組を目指す。
- ・実習先、就職先企業等との連携、協力にもとづき、カリキュラム編成や実習の充実につなげる。
- ・普及が進む生成AIの利活用に向け、授業教材の扱いと課題を検証していく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
就職率	学生の就職活動を支援し、就職率が向上しているか。	◎	A	A
	学生の就職に関する目標を設定し、専門分野に関連する就職が実現しているか。			
	就職実績等のデータを適切に管理し、外部に公表しているか。			
資格取得率	資格、検定、コンペに関する目標を設定し教職員に共有されているか。	○	B	
	資格取得に向けた特別講座の開講や補完授業などの学習支援に取り組んでいるか。			
	合格実績、合格率等のデータ管理や比較を適切に行い、外部に公表しているか。			
	指導方法の検証、改善により資格取得率の向上が図られているか。			
評価	授業評価を実施する体制を整えているか。	○	B	
	在校生、卒業生の社会的評価、活躍を把握しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 5. 学生支援

### 基本方針

- (1) 各専門分野で学修した成果や取得した資格、技術を生かした就職を実現する。
- (2) 課題を抱えた学生が早期に対応できる相談機能を充実させる。
- (3) 教職員間で学生情報の共有を緊密に行い、複数の目できめ細かな個別指導を展開する。
- (4) 学業充実ならびに進路保障に向け、家庭への情報提供と連携を推進する。
- (5) 社会人経験者や既卒者の入学希望に対応できる機会を確保し、指導体制でも工夫と改善を進める。

#### 【総括】

売り手市場が進む就職活動は前年度よりさらに2か月ほど前倒しとなり、早期の内定者も増加した。一方で長期にわたる就職活動を余儀なくされる学生もあり、十分な準備と早い動き出しが求められている。就職部では企業訪問や就職先の開拓だけでなく、企業見学やインターンシップ紹介、助言などきめ細かな個別指導を展開している。また家庭の理解を深めるため、例年より4か月早く就職保護者説明会を開催した。そのほか社会人経験者や既卒者の入学も増えており、経験、年齢が異なる学生に対し専門力を生かした就職につながる学習環境の提供、就職支援などの配慮が必要になっている。修学支援制度指定校、文科省「職業教育実践専門課程」、厚労省「専門実践教育訓練給付金講座」の認定を認定を維持し、入学者の負担を軽減するとともに教育の質保障にも努めていく。そのほか減色制度 奨学金制度 年金納付特例等 就学支援についてホーハル、ハや学校案内 保護者会などを通じ、

#### 【今後の取組】

- ・就職活動では開始時期、活動状況など学生の個人差が大きい。個々に応じた支援を行うため、就職キャリア開発部、担任の連携を緊密にとっていく。また、卒業生や就職先企業の協力をより強固なものにし、業界、業種別の就職状況、就職後の異動状況等を把握に努め、今後の教育活動や学生の就職活動に活用できる情報を蓄積していく。併せて一線で活躍する卒業生のキャリアを活用できる実践的な講座、プログラムを準備し、現役学生の就職活動に生かす。
- ・大学生との競合でも引けを取らない対人スキルやコミュニケーション能力を身につけ、客観的な自己理解にもとづいたキャリアプランニングを進めていく。
- ・担任が学生との個人面談、保護者を交えた三者面談等の機会を設けている。早期の課題発見と情報共有を心がけていく。
- ・学費の分納や様々な減免制度を設けている。毎年のように修学支援制度、奨学金制度の対象拡大など改正が進んでいることから希望者に行き届くよう、円滑な手続きに向け、学生、保護者の相談にきめ細かく対応していく。

	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
就職指導	担任と就職担当者が連携し、進路・就職相談を実施しているか。	◎	A	A
	学生の就職活動状況を学内で共有しているか。			
	関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか。			
	求人開拓のための活動を行っているか。			
	学生の就職活動を支援するセミナー、講座などを開講しているか。			
学生相談	学生指導に関する教職員の連携体制が取れているか。	○	B	A
	学生相談やメンタルヘルスに対応できる環境を整備しているか。			
	学生に対し、相談利用に関する案内を行っているか。			
	休学者に対し、適切な対応を行っているか。			
経健康支援	定期健康診断を実施しているか。	○	A	A
	保健室の利用等、適切な体調管理を行っているか。			
	学費減免等の経済的支援制度があるか。			
	公的制度も含めた経済的支援について、学生・保護者に情報提供し、適切に対応している			
	学生の課外活動等に適切な支援を行っているか。			
者保護連携	保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか。	○	B	A
	面談、説明会等の機会を提供し、進路決定や課題対応について適切な連携を図っているか。			
社会人支援	社会人経験者の受け入れに際し、関係機関との連携を十分に行っているか。	○	B	A
	社会人経験者に対し、就職等の相談、指導に適切な対応を行っているか。			
	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 6. 教育環境

### 基本方針

(1) 経年劣化等による修繕、交換など施設、設備、機器類の日常点検、定期点検を踏まえ、計画的な整備を行う。

(2) 地域の企業、事業所や関係機関との連携による学外実習について検証と改善を重ね、成果を高めていく。

(3) 災害発生時、緊急事態発生時における行動指針の周知と浸透を徹底し、学生の安全に最大限留意する。

#### 【総括】

施設の経年劣化が進み、照明機器や排水設備、トイレなど修繕を要する箇所が増えている。校舎自体の大幅改修は難しいので、日常巡回や定期点検にもとづき、整備計画を立てていく。新年度に備え、教室や面談、応接スペースを施設改修した。災害、事故も増えていることから情報収集等の管理体制を見直し、教職員の危機対応力の向上と学生の安全配慮に一層留意していく。機器の更新が不可欠なICTシステムやデザイン科、歯科衛生士科は計画性をたって随時切り替えるを進めている。

#### 【今後の取組】

- ・建物の構造上、抜本的な施設改修は困難な中、新たな科設置、コースの変更に伴い効果的な施設利用、教室配置を進める。また設備の保守管理や不具合については迅速に対応していく。学習環境、保守管理、安全確保に必要な設備改修、交換を計画的に進め、学生、教職員の満足度と学習効果を高めていく。
- ・外国人留学生もいる本学園では、災害時の避難行動や防災意識の向上に向け、適切な指示、情報伝達など安全配慮に努めていく。
- ・緊急対応マニュアル、災害、防犯などを含む危機管理マニュアルを適時見直し、学園組織全体の情報集約、連絡体制について徹底を図る。適宜教職員のAED講習を計画する。
- ・各科の学外実習は期間中の訪問、打ち合わせにより、活動状況、実習環境を把握していく。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
施設設備	教室、実習室等の施設設備が整備されているか。	○	B	
	施設・設備の保守管理が定期的に行われているか。			
	学内の整理、整頓や清掃等の衛生管理が日常行き届いているか。			
	図書室、掲示コーナー等が設置され、適切に運用されているか。			
学外実習・行	意義や教育課程上の位置づけを明確にし、学外における現場実習を実施しているか。	○	B	B
	実習先、受け入れ先と適切な連携を取り、連絡、調整の機会を確保しているか。			
	学外実習等の教育効果について検証、確認を行っているか。			
	学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか。			
	保護者、関連業界、卒業生の就職先等に行事の案内をしているか。			
防災・安全管理	防災・防犯・非常時の危機管理対応マニュアルを作成し、徹底を図っているか。	○	B	
	防災訓練を定期的実施しているか。			
	学内における安全管理体制、防災における組織体制を整備し、適切に運用しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 7. 学生募集

### 基本方針

(1) 安定した学生募集に向け、志願者、入学者の状況を検証し、高等学校等へのきめ細かな情報提供を行う。

(2) ガイダンス参加者、資料請求者を学校説明会、オープンキャンパス参加につなげる工夫、新規ポスターの作成、Web情報の充実など実効性の高い広報活動を展開する。

(3) 高等学校進路指導との情報共有を密にし、出前講座の提案など積極的な働きかけを行う。

(4) 社会ニーズや高校生ら若者の期待に応える科、コースの刷新に努め、その特長や職業の社会的有用性を積極的に周知する。関係機関との連携をさらに強化していく。

#### 【総括】

18歳人口減少に加え、修学支援制度の拡充による大学進学増加、競合校の学科再編や学費改定等が影響し、学生募集は厳しさを増している。OCなど来校を待つだけではなく、学びの魅力を体感できる出前講座など出向いて接点を持つ広報活動にも力を入れる。きょうだい入学の多さは在学中の満足度、信頼度の証ともいえる。施設設備などハード面に目を向けられがちだが、丁寧な指導体制とともに就職、資格取得に優れる3科の特長及び魅力の発信にも一層努めていく。高校生の進路決定が早期化する。

#### 【今後の取組】

- ・インターネット検索、SNSほかWebやDMの活用など若い世代が届く広報戦略の一層重要さを増している。コース名を学びの内容や職業を想起しやすい名称に変更していく。
- ・資料請求、ガイダンス参加履歴等の活用やネット媒体への更新、Web情報の効果的な発信により、志願者のアクセスとオープンキャンパス参加に結びつけていく。オープンキャンパスでは学生スタッフを活用し、参加高校生の親近感、保護者の安心感が高まるよう工夫を重ねる。Instagramも一層工夫を凝らし、LINE登録者には気軽な質問、相談などきめ細かくサポートする。
- ・医療サポート科は登録販売者資格を軸に据えながらも、コース内での柔軟な履修体制を新たに構築する。歯科衛生士科、ICTシステムデザイン科は地元実習、就職のメリットと実績により、保護者世代、高校教員の関心を高める。
- ・出前講座や学校見学などの独自企画は好評であり、今後も高校の要望に応える内容を企画提案していく。また、地域支援の一環で中学校とも連携を進め、周知につなげる。
- ・「職業実践専門課程」（文科省）認定による教育の質保証、社会人向け説明会では専門実践教育訓練給付金講座（厚労省）による学費支援を広く周知し、専門のスキルアップを望む学び直し入学や既卒者入学の増加につなげる。

	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
募集活動	高等学校等の教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか。	○	B	B
	資格取得・就職状況ほか育成人材像など必要な情報を明示しているか。			
	高校生、既卒者、社会人など志願者への入学相談に適切に対応しているか。			
	オープンキャンパス、学校説明会等、学校を知る機会の提供や内容に工夫を込めているか。			
広報活動・学生募集活動おける情報発信を有効に展開しているか。				
選考	学校案内等に選抜方法を明示しているか。	○	A	
	入学選考基準に基づき、公正かつ適切な選抜が実施されているか。			
	各学科の選抜、入学データは適切に管理されているか。			
学納金	学生納付金は適正に運用されているか。	○	B	
	学校案内等で学費・教材費等を明示しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 8. 財務

### 基 本 方 針

(1) 社会状況、環境変化に伴い学生募集が厳しさを増す中、中長期的視点に立って財政基盤の安定化を図る。

(2) 予算の編成、執行では各科の教育目標、事業計画を精査し、コスト管理を適切に行っていく。

#### 【総括】

入学者数が2年、3年にわたって収支バランスに影響することから、安定した学生募集に努め、財政基盤を強化しなければならない。留学生は日本語科クラス1認定を活用し、意欲ある学生の国際ビジネス科内部進学者を増やすなど、学生募集の安定化により財政基盤の維持につなげていく。

#### 【今後の取組】

- ・日本人、留学生いずれの科も特長や認知度向上に努め、志願増につながる工夫を重ねる。
- ・各科毎の収支状況を精査し、適正な財務管理を行うとともに、学園全体で課題の理解、共有に努める。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
基 財 盤 政	中長期的視点に立った財務基盤を築いているか。	○	B	A
	入学者数及び定員充足率の推移にもとづき、バランスの取れた収入と支出になっているか。			
予 算 収 支 計 画	予算及び収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	○	B	
	予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか。			
	予算及び収支計画に基づき、適切な執行を行っているか。			
	予算執行にあたって適正な会計処理を行っているか。			
監 査	私立学校法に基づき、適正に会計監査を実施しているか。	○	B	
	監査報告書を作成し、理事会・評議員会等で報告しているか。			
財 務 情 報	財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	○	B	
	公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか。			
	ホームページ掲載などでの情報公開に取り組んでいるか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

## 9. 関係法令等の遵守

### 基本方針

- (1) 関係法令及び設置基準等にもとづき、適正な学校運営を行う。
- (2) 教職員、学生のコンプライアンス意識を高め、必要な相談窓口を設置する。
- (3) 学校自己評価、学校関係者評価を実施し、評価結果を教育改善に生かすとともにホームページに掲載する。

#### 【総括】

法令に則った学校経営が行われるようガバナンス機能を高め、自律性の高い運営組織の確立を目指している。学校概要、教育活動、成果実績、学校評価、教職員等の教育情報をホームページで公開している。職場全体でコンプライアンスの向上に取り組むとともに、働き方改革に即して働きやすい労働環境

#### 【今後の取組】

- ・生成AIの普及に伴い、著作権や情報管理への意識を高めるとともに、個人情報保護に対する規定、周知、教育を一層徹底していく。
- ・教職員の勤怠管理について、適宜、見直しを図り、働きやすい職場環境づくりを推進していく。学生も奨学金など制度変更による該当者には適時、通知、案内を行っていく。
- ・私立学校法など改正に際して適切に対処する。
- ・コンプライアンス委員会は学内規定とコンプライアンスマニュアルの周知徹底を図る。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
法令遵守	関係法令にもとづく理事、評議員を選任し、適正な学校運営を行っているか。	○	B	
	専修学校設置基準等を遵守し、必要な諸届を適切に行っているか。			
	学校運営に必要な規則・規程やハラスメント防止の指針等を整備し、適切に運用しているか。			
	教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修、教育を行っているか。			
個人情報	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	○	B	A
	個人情報保護規程が整備され、学生・保護者・教職員に周知されているか。			
	学校開設サイトの運用において、情報漏洩等の防止策を講じているか。			
	学生、教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか。			
学校評価・公開	学校自己評価、学校関係者評価の実施体制を整えているか。	○	B	
	学校評価を実施し、評価結果を報告書に取りまとめているか。			
	評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか。			
	評価結果をホームページに掲載するなどして公表しているか。			
	学校の概要、教育内容、教職員等の教育情報を積極的に公開しているか。			

個別評価：A適切に対応 Bほぼ適切に対応しているが課題がある C対応が十分でなく課題が多い D不適切である  
 実施度：◎ 実施している ○ ほぼ実施している △ 改善の必要がある

10. 社会貢献・地域貢献

基 本 方 針

- (1) 学園の持つ教育資源や教育活動を通して構築した連携力を地域に還元し、社会貢献に資する。
- (2) 教職員、学生の視野が広がる地域行事や貢献活動への参加機会と支援体制を整える。

【総括】

地元中学校から部活動地域移行の相談を受け、平青学園施設を活用した放課後の活動について検討を始めた。日本人学生、留学生、教職員が一緒になって展開できる地域活動などの模索など、地元に対し、学園の持つ教員や学生、施設等の教育資源の提供に努めていく。

【今後の取組】

- ・長野市の部活動地域移行における可能な支援を推進していく。
- ・ハローワークのIT人材養成職業訓練生（ICTシステムデザイン科）や短期訓練の受け入れ拡大を目指していく。
- ・中学校、高校への出前講座ほか、キャリア教育に資するプログラムを提供していく。
- ・研究発表会を近隣住民、事業所等に公開し、交流機会を増やすなど地域に開かれた活動により、学園の存在をアピールしていく。
- ・長野市「いきいき生涯学習」の講座（ICTシステムデザイン科）開設、スクーリングや検定への施設貸し出しの継続実施など教育資源を提供する。

観点	評価項目	実施度	自己評価	外部評価
貢献活動	教育資源（施設・設備の開放、教職員の出張講座等）を地域に提供しているか。			B
	地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか。	○	B	
	中学校、高等学校等が行うキャリア教育等に教職員を派遣するなど積極的に支援、協力しているか。			
ボランティア	学生の社会的活動（地域活動・地域貢献・ボランティア活動等）を支援しているか。	○	B	
	ボランティア等の活動実績や結果を共有しているか。			